

# 演劇ワークショップ：インプロヴィゼーションを学ぶ

担当教員名 平野井ちえ子

## 1 コースの概要

日 程	2014年2月14日～17日
場 所	アートカフェ百舌（小劇場）
参加人数	10名

## 2 コースの目的

入門的な演劇ワークショップに参加することで、コミュニケーションをめぐる感性や想像力を磨き、舞台芸術に関する鑑賞眼・表現力・創造力を養う。

## 3 事前学習

インプロヴィゼーションの性質上、体験の場での即時性や発見が重要なので、事前講義は最小限にとどめた。参加者が「演劇ワークショップ」に対してもっているイメージを交換し、その一例として平田オリザの「演劇ワークショップ」について簡単な講義を行なった。最後に、ワークショップ講師の奥野晃士氏と所属劇団のSPAC（静岡県舞台芸術センター）について紹介し、服装や心構えなど、ワークショップ受講上の注意も確認した。

## 4 行程

### 1日目

ウォーミングアップ（「シェイクハンド」、「わたし・あなた」）、感情の解放訓練、ゲーム（「エアハンカチ落とし」、「名前鬼ごっこ」）、魅せる身体づくり方（心身統一合気道、スズキ・トレーニング・メソッド入門）、インプロヴィゼーションの基礎（言葉を用いた即興劇における「アクセプト」の実践：「ワンボイス」、「ワンワード」、「シェアード・ストーリー」）

### 2日目

ゲーム（「フルーツゲーム」、「ミラー」、身体で形をつくる、「彫刻ネーミング」、「サンキューゲーム」）、魅せる身体づくり方（「静」の身体存在感：心身統一合気道、スズキ・トレーニング・メソッド入門）、「リーディングカフェ」（小田島雄志翻訳によるシェイクスピアの『夏の夜の夢』と野田秀樹潤色版『真夏の夜の夢』の本読み比較。）

### 3日目

ゲーム（「ジップ・ザップ・ソップ」、「ミラー」、「エクステンド&アドバンス」、「プレゼントゲーム」）、腹式呼吸と発声、『夏の夜の夢』のバックのエピローグを用いたスズキ・トレーニング・メソッド入門、奥野講師の主演舞台『イワーノフ』ハイライト鑑賞、インプロヴィゼーションの基礎（「ペーパーズ」、「スペースジャンプ」）

### 4日目

ワークショップ最終日：午後は成果発表会  
歌を用いたスズキ・トレーニング・メソッド入門、ゲーム（「イエスレッツ」、「社長ゲーム」）、そのほか午前中は発表会のリハーサル。発表会は、「解放訓練」→「わたし・あなた」→「ミラー・ダンス」→「ペーパーズ」→「スペースジャンプ」→「スズキ・トレーニング・メソッド入門」で構成し、参加者の友人等を観客に招いた。座談会で、4日間の体験と成果をふりかえった。

## 5 事後学習

コミュニケーションの基礎を育む簡単なゲームから最終日の発表会での即興劇づくりまで、上達のプロセスをハイライトの映像でふりかえってディスカッションを行なった。各自の日記とエッセイも全員で交換し、インプロヴィゼーションを中心とする演劇ワークショップが体験できたことを確認した。

## 6 雑感

とくに言語によるコミュニケーションが活発になった。ぜひとも学生生活や将来に役立ててほしい。今回は男子学生が多いのが意外だった。演劇ワークショップとジェンダーバランスの関わりも興味深い。



最終日発表会での即興劇の一コマ